



山形県感染症発生動向調査

平成30年第18週(4月30日～5月6日)

山形県感染症情報センター(山形県衛生研究所)
TEL.023-627-1109, FAX023-641-7486
URL <http://www.eiken.yamagata.yamagata.jp/>
2018年5月9日 発行

<定点把握感染症>

※表中の数値 上段:報告数 下段:定点当たり報告数

※定点当たり報告数が、▲:2週連続増加、△:今週増加、▼:2週連続減少、▽:今週減少 ※◎:警報レベル ○:注意報レベル

疾患名	全国	山形県			村山地区			最上地区			置賜地区			庄内地区			累積(県) 第1~18週
	第17週	第17週	第18週	増減	第17週	第18週	増減	第17週	第18週	増減	第17週	第18週	増減	第17週	第18週	増減	
インフルエンザ定点 (定点医療機関数)		(48)			(20)			(5)			(10)			(13)			
インフルエンザ	6025 1.23	188 3.92	64 1.33	▼	59 2.95	35 1.75	▼	15 3.00	3 0.60	▼	96 9.60	19 1.90	▼	18 1.38	7 0.54	▼	16082
小児科定点 (定点医療機関数)		(30)			(13)			(3)			(6)			(8)			
RSウイルス感染症	1184 0.38	21 0.70	10 0.33	▼	2 0.15	2 0.15		1 0.33	1 0.33		18 3.00	7 1.17	▼				271
咽頭結膜熱	1456 0.46	13 0.43	14 0.47	△	6 0.46	4 0.31	▽	2 0.67	1 0.33	▽	3 0.50	9 1.50	△	2 0.25		▽	248
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	9110 2.91	119 3.97	34 1.13	▽	56 4.31	15 1.15	▽	4 1.33		▼	51 ◎8.50	14 2.33	▽	8 1.00	5 0.63	▼	2086
感染性胃腸炎	21179 6.76	235 7.83	156 5.20	▽	104 8.00	68 5.23	▼	49 16.33	29 9.67	▽	29 4.83	26 4.33	▽	53 6.63	33 4.13	▽	2597
水痘	1225 0.39	15 0.50	5 0.17	▽	9 0.69	2 0.15	▽				4 0.67	1 0.17	▼	2 0.25	2 0.25		215
手足口病	956 0.30	7 0.23	7 0.23		6 0.46	1 0.08	▽				1 0.17	5 0.83	△		1 0.13	△	245
伝染性紅斑	403 0.13	3 0.10	6 0.20	△	1 0.08		▽				2 0.33	5 0.83	△		1 0.13	△	84
突発性発しん	1950 0.62	23 0.77	12 0.40	▽	6 0.46	1 0.08	▽	2 0.67	1 0.33	▽	10 1.67	4 0.67	▽	5 0.63	6 0.75	△	252
ヘルパンギーナ	122 0.04	2 0.07		▽	2 0.15		▽										31
流行性耳下腺炎	498 0.16	4 0.13		▼	2 0.15		▽				1 0.17		▽	1 0.13		▼	49
眼科定点 (定点医療機関数)		(7)			(3)			(1)			(1)			(2)			
急性出血性結膜炎	24 0.04																
流行性角結膜炎	608 0.89	1 0.13	6 0.86	△		4 1.33	△		2 2.00	△				1 0.50		▽	22
基幹定点 (定点医療機関数)		(10)			(4)			(1)			(2)			(3)			
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	188 0.39																16
クラミジア肺炎	5 0.01																
マイコプラズマ肺炎	83 0.17	1 0.10	2 0.20	△	1 0.25	1 0.25									1 0.33	△	50
細菌性髄膜炎	14 0.03																4
無菌性髄膜炎	16 0.03																3

<全数把握感染症>

疾患名	類型	報告数				備考
		村山	最上	置賜	庄内	
結核	患者	1				
	無症状病原体保有者	2				
つつが虫病	患者	1				
侵襲性肺炎球菌感染症	患者	1		1		※内、第16週追加報告1件。ワクチン接種歴:無し1件、4回1件。
水痘(入院例)	患者		1			ワクチン接種歴:不明。
百日咳	患者	1				ワクチン接種歴:不明。成人。

<通信欄>

※大型連休に伴う医療機関の休診により、全体的に報告数が少なくなっています。

また、定点医療機関数に変更になっています。(眼科定点:8→7)

※トピックスで、つつが虫病について掲載しています。

※定点把握感染症のグラフ・全数把握感染症の年間累積数については別紙(グラフページ)をご覧ください。

< 定点把握感染症 報告患者数 年齢別 >

インフルエンザ定点	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20～29歳	
インフルエンザ	2	1	5	3	6	1	8	5	2	1		14	2	2	
	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～79歳	80歳～									合計
	3	3	1	1	2	2									64
小児科定点	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10～14歳	15～19歳	20歳～	合計
RSウイルス感染症	1	1	4	3			1								10
咽頭結膜熱		3	7	1	2		1								14
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎			2	1	3	7	5	5	1	2	2	4		2	34
感染性胃腸炎		11	16	17	22	21	17	12	9	9	5	15		2	156
水痘						2			1	1		1			5
手足口病		1	4			2									7
伝染性紅斑					1		2	2	1						6
突発性発しん		3	7	2											12
ヘルパンギーナ															
流行性耳下腺炎															

< 平成30年3月 月報 >

2018年4月18日 発行

疾患名	山形県		村山地区		最上地区		置賜地区		庄内地区		累積(県) 1～3月	
	2月	3月	2月	3月	2月	3月	2月	3月	2月	3月		
STD定点 (定点医療機関数)	(10)		(4)		(1)		(2)		(3)			
性器クラミジア感染症	報告数	19	22	9	4	7	11		2	3	5	60
	定点当り	1.90	2.20	2.25	1.00	7.00	11.00		1.00	1.00	1.67	
性器ヘルペスウイルス感染症	報告数	11	8	1	2	4	2	3	3	3	1	28
	定点当り	1.10	0.80	0.25	0.50	4.00	2.00	1.50	1.50	1.00	0.33	
尖圭コンジローマ	報告数	2	3	1	1				1	1	1	8
	定点当り	0.20	0.30	0.25	0.25				0.50	0.33	0.33	
淋菌感染症	報告数		4		1						3	7
	定点当り		0.40		0.25						1.00	
基幹定点 (定点医療機関数)	(10)		(4)		(1)		(2)		(3)			
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	報告数	6	9			1	2	2	2	3	5	18
	定点当り	0.60	0.90			1.00	2.00	1.00	1.00	1.00	1.67	
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	報告数	13	21	5	13		1	2	1	6	6	54
	定点当り	1.30	2.10	1.25	3.25		1.00	1.00	0.50	2.00	2.00	
薬剤耐性緑膿菌感染症	報告数											
	定点当り											

< トピックス >

【つつが虫病情報】

第18週に、今年3例目のつつが虫の報告がありました。第1週から第18週までの累計報告数は、2006年以降で最も多くなっています。

つつが虫とは

病原体を持っているツツガムシ(ダニの一種)の幼虫に刺されて、高熱や発疹などの症状が出る病気です。早期に適切な治療を受ければ完全に治りますが、治療が遅れると重症化することがあります。

山形県でつつが虫の主な原因となるフトゲツツガムシは、夏に産卵して秋に幼虫となります。幼虫は気温が低いと活動できないため、土の中で冬を越します。春になり、気温が高くなると活動を再開します。そのため、山形県では春から夏にかけて多く発生し、秋にも報告がみられます。



写真: ヒゲツツガムシの幼虫

《症状・治療》

典型的な症例では、ツツガムシに刺されてから5～14日後に38～40℃の高熱を伴って発症します。全身のだるさや頭痛などの風邪様症状を伴い、熱が出てから2～5日後にはほぼ全身にわたって赤い発疹が現れます。

病原体を持つツツガムシに刺された場所(刺し口)には、初め赤い丘疹ができて水泡となり、その後膿疱となります。発熱して6日目ごろには中央部が黒いカサブタになります。ツツガムシが好んで刺す場所は、内股や脇の下などの皮膚の柔らかい隠れた部分です。刺し口は1cm程度ですので、全身をくまなく探すと刺し口が見つかります。

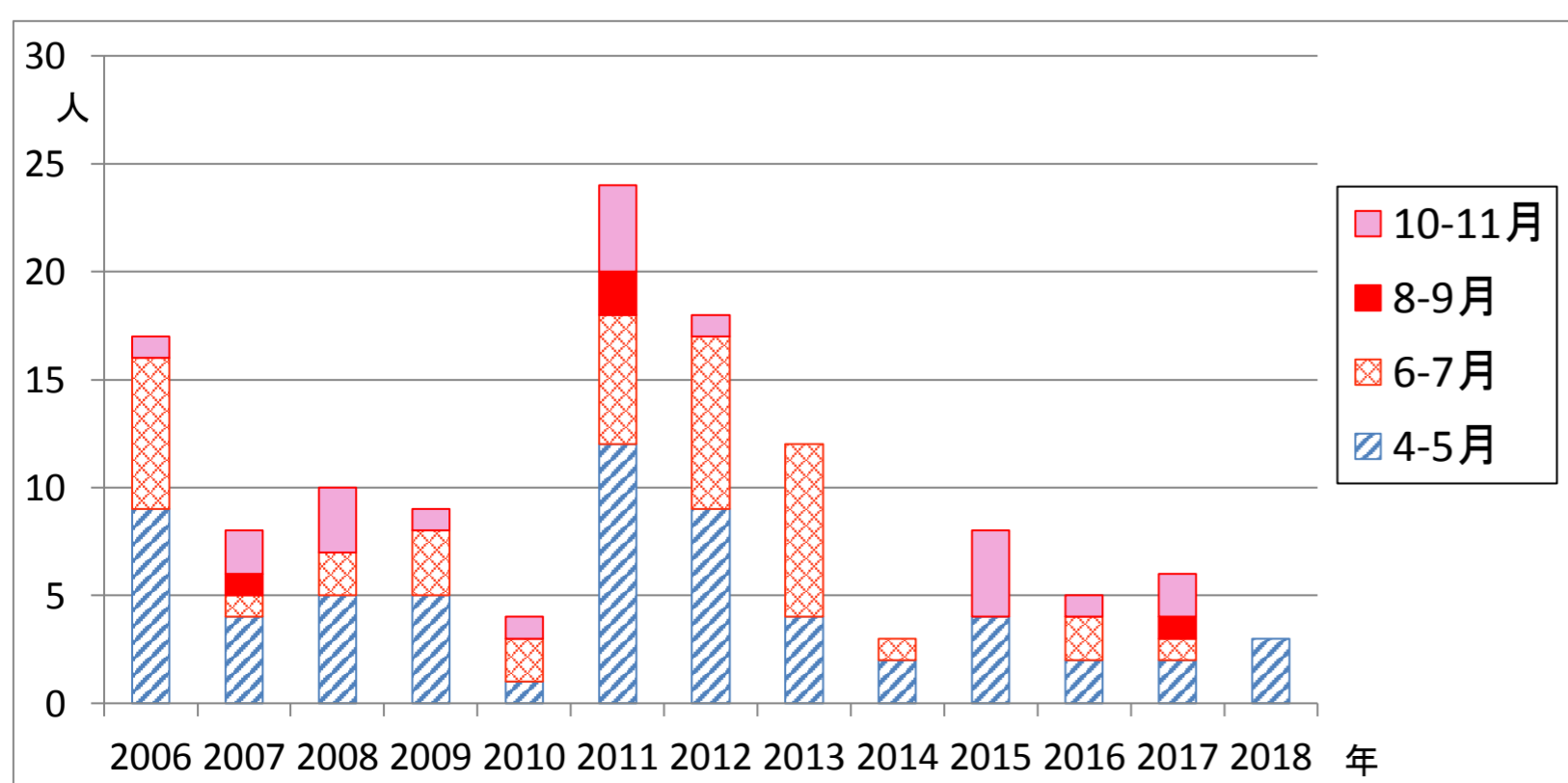
重症化を防ぐためには、早期につつが虫を疑い、適切な抗菌薬を投与することが重要です。受診の際は、医師に数日前にツツガムシのいそうな場所に立ち入ったことや、刺し口があることを伝えましょう。

《予防法》

- ツツガムシは、田畑、山林、やぶ、河川敷、草原などに生息しています。これらの場所に立ち入るときは、次のようなことを心がけることが大切です。
- ① 長袖、長ズボン、長靴、手袋などを着用し、素肌をできるだけ露出しない。
 - ② ダニ忌避剤、防虫剤を衣服に散布する。
 - ③ なるべく草むらに直接座らない。
 - ④ 帰宅したら早めに入浴し、ツツガムシ幼虫を洗い流す。

《つつが虫報告数(山形県)》

※2018年は第18週までの累計



※当所作成のつつが虫病についてのパンフレットは下記のURLからダウンロードできます。

<http://www.eiken.yamagata.yamagata.jp/pdf/tsutsu-pamh-2013.pdf>